

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02423

研究課題名(和文) 教師教育者の資質とその養成モデルに関する研究

研究課題名(英文) Research on Qualities of Teacher Educators and their Training Models

研究代表者

足立 祐子 (ADACHI, Yuko)

新潟大学・教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：00313552

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：2019年は日本語教師教育の先行研究をまとめた。さらに文化審議会国語分科会「日本語教育人材の養成・研修のあり方について」の教師に求められる「知識」「技能」「態度」を検討した。2020年は、想定外の事態における教師の対応を研究した。省察及び”Second Language Teacher Education”(Burns & Richards, 2009)を参考にそのモデル案を作成した。最終年度は、教師教育に関する研究メンバーの課題とそれに関する議論を行った。並行して”Educating Second Language Teachers”(Donald Freeman, 2016)の検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語教師教育は他の科目の教師教育より複雑であるため教師教育研究が少ない。複雑さの理由は、言語という教科のもとになる学問分野が多岐に分かれているためである。日本語教育では、言語学、日本語学、文学、心理学、異文化教育学など、教師教育には多くの分野の知識が求められる。さらに知識だけではなく、学習者に学習目標に到達できるように指導する技術も求められる。この点に着目し本研究は教師の身体表現や内省について焦点をあてて進めた。本研究は「教えることを教える」困難さについて一定の研究成果を出すことができたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In 2019, we summarized previous research on the theme of teacher education in Japanese language education. In 2020, we focused on teacher behavior in the classroom.

Specifically, we focused on teachers' responses to unexpected situations in the classroom. A draft model was developed with reference to reflection and "Second Language Teacher Education" (Burns & Richards, 2009). In the final year of the project, each research member discussed issues related to teacher education and their related issues. In this discussion, we discussed issues related to teacher education. In parallel, we examined teacher education in "Educating Second Language Teachers" (Donald Freeman, 2016).

研究分野：日本語教育

キーワード：教師教育 日本語教師の資質・能力 リフレクション 授業対応力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 文化庁では、2016年度から文化審議会国語分科会において、日本語教育人材の養成や研修の在り方

について検討を進めてきた。その検討結果を2019年に「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」として取りまとめ発表した。日本語教師の養成については2000年の「日本語教育のための教員養成について」を基本的な指針として大学等の日本語教師養成機関において実施されてきた。しかし、時代の変化とともにさまざまな課題生じてきたのが2019年の報告を公表した経緯である。

(2) 日本語教育では、技術的熟達者志向の教師トレーニングから教師自身の省察による教の成長重視の

教師養成や研修に変化してきた。しかし、授業において臨機応変に適切な方法を選択・創造できる教師の「適応的熟達化」の育成は省察ができる教師育成と同様重要な視点である。本研究は、技術的熟達者と省察的实践家という教師像を相互補完的に捉え、教師教育者に焦点をあて研究を開始した。

2. 研究の目的

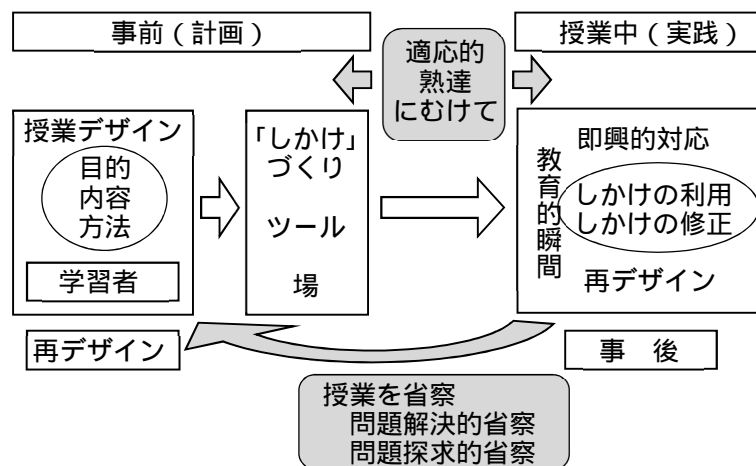
(1) 本研究は日本語教育における教師教育者の資質、教師教育者の養成モデルを明らかにすることを当初の目的とした。研究期間が短いため、入門期の日本語教育に限定した。その理由は、日本語学習者にとって入門期が学習意欲形成に重要な時期であり、教師にとっては入門期特有の指導技術が求められるからである。

(2) 2019年度末ごろから新型コロナウイルス(COVID-19)感染の問題があり当初の計画どおりの研究が進められなくなった。そこで、日本語教育における教師教育者が抱える問題点、教師教育における内容(特に省察)の2点を明らかにすることに修正した。

3. 研究の方法

「技術的熟達者」と「省察的实践家」の相互補完的な教師像を念頭に、教師教育者自身の実践を分析することにより教師教育者の資質とその養成モデルを考察した。日本語教育において教授技術が最も必要とされる日本語入門レベルのクラスに対応できる教師(図1)の養成・研修ができる人材(教師教育者)に限定して行った。2019年度末から新型コロナウイルス感染予防のため対面での研修実施ができなかったため、急遽、文献のレビューや教師教育モデルの理論について研究メンバーで議論を行った。

【図1 授業実践（計画段階を含む）の分析（編みかけ部分が教師教育者の関与部分）】



4. 研究成果

(1)2019 年度

1. 日本語教育における教師教育研究のレビューを行った。分析結果は韓国建国大学で開催された研究会で口頭発表し、その内容を「日本語・日本文化研究」に発表した。
2. 文化審議会国語分科会「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」改訂版（2019年3月）において教師に求められる「知識」「技能」「態度」について OECD-DeSeCo が示すコンピテンシー等を参考に研究グループ内で検討した。
3. 日本語教師研修の内容構築に活用できる研修案をインストラクショナル・デザインに基づき作成し、2019年度日本語教育学会春季大会（2019年5月）に口頭発表した。
4. 日本語教師研修の内容構築のためのリストを作成し、2019年度日本語教育学会秋季大会（2019年11月）にポスター発表を行った。
5. 大学が実施する日本語教師養成コースの教育実習の分析を行った。実習における教師役である実習生と学習者のインターアクションに注目し、そこから教師の有すべき知識について研究グループ内で検討した。

(2)2020 年度

1. 2019年度に行った（上述の2）教師に求められる「知識」「技能」「態度」について検討したことを日本教師教育学会（2020年9月）に発表した。
2. 2019年度に行った（上述の5）授業中における教師と学習者のインターアクションの中で、特に教師が想定していなかった事態に対する教師の対応を検討し図式化を試みた。この内容は、2020年度日本語教育学会秋季大会（2020年11月）に口頭発表した。

3. ドナルド・A・ショーンの『省察的实践とは何か』、『省察的实践者の教育』及び Burns & Richards 『Second Language Teacher Education』を参考に、省察（reflection）の検討を行った。

(3)2021 年度

1. 教師養成と現職者研修について、教師教育に関する各メンバーの実践現場の現状と問題点について検討した。
2. 身体表現を主とした教師研修プログラムにおける講師に対する内省の聞きとりを実施した。
3. Donald Freeman 『Educating Second Language Teachers』における教師教育の内容の検討を行った。

<引用文献>

ドナルド・A・ショーン（2007）『省察的实践とは何か-プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房

ドナルド・A・ショーン（2017）『省察的实践者の教育 - プロフェッショナルスクールの実践と理論』鳳書房

Anne Burns & Jack C.Richards(2009) 『Second Language Teacher Education』 Cambridge University Press

Donald Freeman (2016) 『Educating Second Language Teachers』 Oxford University Press

[その他]

リモートで実施した科研メンバー内の研究会の概要等及び成果内容を以下に置く。

<https://drive.google.com/drive/folders/1Vy2H1wj70KBwSWHR6jGy4lgVH9pA6GZc?usp=sharing>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 足立祐子・松岡洋子・林さと子・富谷玲子・宇佐美洋・今村和宏	4. 巻 1
2. 論文標題 「日本語教師の「熟達過程」について考える 教室活動における「問題解決能力」という視点から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年度日本語教育学会予告集	6. 最初と最後の頁 121-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宇佐美洋	4. 巻 1
2. 論文標題 「日本語教育人材に必要な資質・能力」の内容は示されたか？：全体像をとらえるための別解」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語文化教育研究会第7回年次大会予稿集	6. 最初と最後の頁 112-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 足立祐子・松岡洋子	4. 巻 2
2. 論文標題 日本語教育における教師教育研究の概要と教師教育の枠組み - 日本語教育学会（1992）を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語・日本文化研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宇佐美 洋, 岡本能里子, 文野峯子, 森本郁代, 柳田直美	4. 巻 17
2. 論文標題 「演じること」による教師の変容の可能性 フォーラム・シアターに参加した日本語教育支援者の語りから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語文化教育研究	6. 最初と最後の頁 383-403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美 洋	4. 巻 26
2. 論文標題 日本語教育人材の「資質・能力」育成に関わる諸概念を再考する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語・情報・テキスト	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立祐子	4. 巻 1
2. 論文標題 第二言語としての日本語教師と教師教育者に求められる資質・能力 - これまでの議論の整理と今後の教師教育に向けて -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近代東アジアと日本文化 - 柴田幹夫教授退官記念論集 -	6. 最初と最後の頁 422-445
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 「言語教育における「技能」「態度」の意味を再考する」
3. 学会等名 一橋日本語教育研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 足立祐子・松岡洋子
2. 発表標題 教師に求められる資質・能力の再考 - 日本語教育における教師研修を中心に -
3. 学会等名 日本教師学会第30回研究大家
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 足立祐子・松岡洋子
2. 発表標題 日本語教師のためのコミュニケーション力養成研修の内容検討
3. 学会等名 異文化間教育学会第41回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 足立祐子・松岡洋子・林さと子・富谷玲子・宇佐美洋・今村和宏
2. 発表標題 「日本語教師の「熟達過程」について考える 教室活動における「問題解決能力」という視点から 」
3. 学会等名 2020年度日本語教育学会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇佐美洋
2. 発表標題 「「日本語教育人材に必要な資質・能力」の内容は示されたか？：全体像をとらえるための別解」
3. 学会等名 言語文化教育研究学会第7回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 足立祐子,松岡洋子
2. 発表標題 移民的背景を持つ学習者に対応できる日本語教師の研修
3. 学会等名 日本語教育学会2019年度春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立祐子, 松岡洋子
2. 発表標題 ドイツの移民・難民対象の語学教師研修に見られたトランスカルチャー
3. 学会等名 異文化間教育学会第40回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡洋子, 足立祐子
2. 発表標題 日本語教師現職者研修のためのCan- d o リスト
3. 学会等名 日本教師教育学会第29回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡洋子, 足立祐子
2. 発表標題 多様な背景の学習者とコミュニケーションが取れる教師力養成
3. 学会等名 カナダ日本語教育振興会 (C A J L E) 2019年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立祐子
2. 発表標題 入門クラスのための日本語教師に求められる教授技術
3. 学会等名 建国大学国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立祐子, 松岡洋子, 林さと子, 宇佐美洋, 安場淳, 富谷玲子, 今村和宏
2. 発表標題 これからの地域日本語教育人材を問う 「日本語学習支援者」と「日本語教師」は別物なのか?
3. 学会等名 日本語教育学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松岡 洋子 (MATUOKA Yoko) (60344628)	岩手大学・教育推進機構・教授 (11201)	
研究分担者	富谷 玲子 (TOMIYA Reiko) (40386818)	神奈川大学・外国語学部・准教授 (32702)	
研究分担者	宇佐美 洋 (USAMI You) (40293245)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	今村 和宏 (IMAMURA Kazuhiro) (80242361)	一橋大学・大学院経済学研究科・非常勤講師 (12613)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	林 さと子 (HAYASHI Satoko)		
研究協力者	安場 淳 (YASUBA Jun)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関